

社会科学習指導略案（第2学年A組 男子7名，女子21名）

令和1年12月5日（木）3限  
授業者：北面 翔也

- 1 単元名：歴史「近代の日本と世界」
- 2 単元：近代的な国際関係
- 3 本時のねらい：『アジアの国々と結んだ条約内容を読み取ることを通して、日本の外交が国によって異なっていることに気付き、その異なりを文章で表現することができる。』
- 4 準備物：教科書、ノート、ワークシート
- 5 本時の学習過程（第4時／8全時間）

生徒の学習活動及び発問・予想される生徒の反応	・留意点 ○評価【観点】（方法） ※手立て
○明治政府の政策（学制、徴兵令、地租改正、殖産興業）を振り返る。	・前時までのノート・ワークシート参照させ基本事項を振り返る。

めあて：日本は、欧米やアジアとどのような外交をおこなったでしょうか。

○岩倉使節団は、欧米からどのような思いを抱いて、日本へ帰ってきたのだろうか。 ・先に法律の整備をしないといけない。 ・欧米諸国はまだまだ先を行っているので、もっと頑張らないと追いつけない。	・「大久保利通から西郷隆盛へ送られた手紙」「岩倉使節団の航路」の2つの資料を見て、欧米視察の目的について考える。
○清と結んだ「日清修好条規」とは、どのような内容なのだろうか。 ・強制的に結ばれたのではない。 ・対等な条約内容。	・教科書P167[6]から読み取らせる。
○政府内で朝鮮を巡った対立（征韓論）→「日韓修好条規」が結ばれる流れを学ぶ。	
○朝鮮と結んだ「日韓修好条規」とは、どのような内容なのだろうか。 ・朝鮮にとって不平等な内容。 ・日米修好通商条約を朝鮮に押しつけたような内容。	・教科書P167[7]から読み取らせる。
◎日本の外交姿勢について、あなたはどのように思いますか。	・欧米諸国とアジア諸国への対応の違いは、なぜ生まれたのか考える。その対応の違いがやがては戦争へと発展していくことに気付かせる。

なるほど。自分たちより国力が劣る国に対しては、力で押さえ込もうとしているんだ。  
なるほど。自分たちより強い欧米諸国の真似をしているんだ。

○これからの日本は、どのような政策を行っていくのか予想しよう。 ・法の整備を進める。 ・領土を増やすために、他国に攻めていく。	・次の授業へ繋がられるように、考えさせる。
---	-----------------------